

令和5年度 学校関係者評価結果

1. 評価日：令和6年2月28日（水）14：00～15：40
2. 評価者：6名
 - 1) 関連業界関係者：公益社団法人香川県看護協会 会長
 - 2) 高等学校関係者：香川県立丸亀城西高等学校 校長
 - 3) 地域住民：保護者
 - 4) 卒業生：NHO 四国こどもとおとなの医療センター 看護師長
 - 5) 教育関連有識者：四国学院大学 教授
 - 6) 看護管理者：香川県立丸亀病院 看護部長
3. 学校出席者
 - 1) 学校長
 - 2) 副学校長
 - 3) 教育主事2名
 - 4) 事務長
4. 評価対象：令和5年度 学校運営方針の取り組み実施状況
令和5年度学校関係者評価委員会の開催ならびに評価結果について
5. 評価結果：

- 1) 副学校長より、看護学校の概要説明
- 2) 令和5年度 学校関係者評価 学校運営方針 自己評価書に沿って説明
- 3) 説明内容に対し質疑応答も踏まえて審議した内容について抜粋し評価結果として示す。
学校運営方針に沿って実施状況が丁寧にとまとめられ分析も適切、課題に結びついている。
評価としては妥当である。各項目の評価は次の通りである。

(1) 質の高い教育実践と効果的カリキュラム運用を図る。

旧カリキュラムと新カリキュラムの学年がいる中で、3年間で確実に看護を教えるために教員は工夫し努力もされている。修得単位数が増えているが総時間数は減少しており、教育内容を精選した結果である。教育方法にフィールドワークを取り入れ、学生が地域の方と直接接し対応する能力を養うなど、経験しながら学ぶことは将来に生かせる。

看護技術の習得のために教員が動画作成などを行っており、今後も学生が手技の違いに戸惑うことがないように、引き続き教育方法の工夫を行っていただきたい。

(2) 教職員が協働し、安定した学校経営・運営を図る。

会議などを活用し、情報共有ができるようにしている。働き方改革で時間外勤務の軽減に向けた取り組みが必要である。仕事や研究活動などすみわけが難しい自己研鑽部分の考え方も明確にしながら引き続き充実した教育活動に取り組んでいただきたい。

(3) 地域ニーズに応じ、地域社会に貢献できる学校運営を図る。

高齢社会において看護の分野では人材が求められるが、少子化の影響もあり学生確保には危機感を感じ苦労されていると考える。人材が必要な分野で受験生の減少が起こらないように、若者が看護の分野に目を向ける工夫が必要である。引き続きホームページなどを活用し、多くの人に当校を知ってもらえるよう取り組む。

当校の卒業生は、地域社会で活躍している。今年度も看護師国家試験の合格100%を期待できる。

(4) 学生の倫理観、協調性、自律性を育む。

青年期にある学生は、精神面でも不安定なことも多く、またコミュニケーションが難しい学生も多い中で、患者の対応ができるようになるまでの教員のご苦労は多いと思うが、細かい部分にまで配慮し支援できている。